

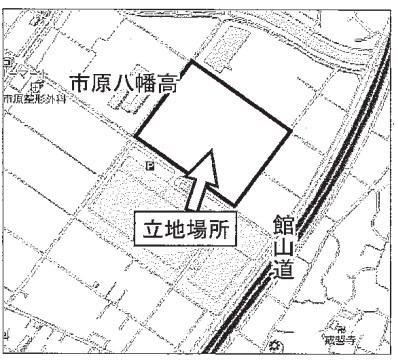
日刊建設新聞

The Nikkan Kensetsu Shimbun

千葉県 全県版

©日本建設新聞社(2014年) (昭和41年11月16日 第3種郵便物認可) 日刊(日、月、祝日休刊)

【東京本社】東京都港区東新橋2-6-6 東京Aビル6F 03-5733-2740
【水戸総局】水戸市南町2-5-24 復興本店ビル 029-227-4551
【宇都宮総局】宇都宮市本町9-12 亀田ビル5F 028-622-8111
【仙台総局】仙台市青葉区上杉1-6-10 仙台北原ビル 022-221-9211
ホームページアドレス: http://www.jpress.co.jp
メールアドレス: jcp-chiba@jpress.co.jp

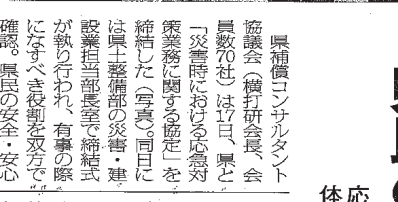


消防学校・防災研修センター整備事業は、災害に強い防災先遣隊の育成を目的として、消防団員等の教育訓練と自主防災組織等への防災教育を充実させるため、既存の消防学校を移転・改築する。県民の防災教育と研修を実施する防災研修センター併設を計画している事業。

既存の消防学校(千葉県中野区)を町66

6・20については、昭和46年5月の設置後48年が経過しており、老朽化や耐震不足が懸念されている。そのため、県では昨年度4回にわたり、同学校の今後について協議する検討会(座長・中井正一)を開催し、同校の立地場所や導入機能などを話し合ってきた。結果として▽採取

また、担当技術者には過去の美観として、平成16年4月1日以降に、同種または類似業務(大学・専門学校・研究所等)の



県と災害協定を締結する関係者たち

方針の整理(本件業務への取組意欲)業務実績の他、に設定。審査は、建設コンサルタンツ協会(委員長)と、

長・安藤正輝(千葉県公職教育)が担当。同委員会は、委員長職務代理者、吉田篤彦(防災危機管理)に廣田直行(日本生産工業大学教授)を委員、

として、坂田由香里(国土交通)が担当。委員は、吉田篤彦(防災危機管理)に廣田直行(日本生産工業大学教授)を委員、

両者で協定書を取り交わした後、宮内担当部長は、県がハード・ソフトの両面で防災・減災対策を進めていることを説明した上で、風水害など大規模自然災害が多発している現状にも触れ、「対応策に当たっては、県民の安全・安心を最優先に考えていく」と述べた。

両者で協定書を取り交わした後、宮内担当部長は、県がハード・ソフトの両面で防災・減災対策を進めていることを説明した上で、風水害など大規模自然災害が多発している現状にも触れ、「対応策に当たっては、県民の安全・安心を最優先に考えていく」と述べた。

確保に向け、官民が両輪体制で取り組む決意を示した。当日は、協議前から横打会長のほか、菊川俊英副会長と、事務局長が出席。これに対し、県からは、宮内担当部長・建設部長・山崎一用(地籍課)が出席した。

両者で協定書を取り交わした後、宮内担当部長は、県がハード・ソフトの両面で防災・減災対策を進めていることを説明した上で、風水害など大規模自然災害が多発している現状にも触れ、「対応策に当たっては、県民の安全・安心を最優先に考えていく」と述べた。

両者で協定書を取り交わした後、宮内担当部長は、県がハード・ソフトの両面で防災・減災対策を進めていることを説明した上で、風水害など大規模自然災害が多発している現状にも触れ、「対応策に当たっては、県民の安全・安心を最優先に考えていく」と述べた。

両者で協定書を取り交わした後、宮内担当部長は、県がハード・ソフトの両面で防災・減災対策を進めていることを説明した上で、風水害など大規模自然災害が多発している現状にも触れ、「対応策に当たっては、県民の安全・安心を最優先に考えていく」と述べた。

コンクリート工学の基礎学

後継者育成で 高校生がプラント見学

組ば製品コンクリート 県合

県コンクリート製品協同組合(花澤長文理事長)は、平野コンクリート(株)金野哲也代表取締役の全面協力を得て16日、市原市久々の同社プラントで県立若津青葉高等学校の生徒らを対象に「コンクリート工学の基礎学」をテーマとした、コンクリート工学の基礎に



工学系列を専攻した今年生9人とその教諭。出迎えた平野社長は見学を促し、プラントの見学を促した。生徒らはコンクリート製品の製造工程を詳しく説明された。平野社長は、コンクリート製品の製造工程を詳しく説明された。平野社長は、コンクリート製品の製造工程を詳しく説明された。

コンクリート工学について「土木の中でも小さな分野だが、東日本大震災からの復興など、重要な役割を担っている。同業界について、勉強して、土木業界に貢献してほしい」とアピールした。

参加者の自己紹介を経て、コンクリート製品そのものの解説で、平野社長自身が講師を務めて座学がスタート。生徒らは、コンクリート製品の製造工程を詳しく説明された。平野社長は、コンクリート製品の製造工程を詳しく説明された。

その材料とそれぞれの果たす役割、強度を高める要素などのほか、同所でも活用されている新技術を用いたエココンクリートについて学んだ。

その後、同組合の工場に隣接する試験室で移動。X・R管理用シータシート、ヒストグラムなどのデータを見ながら、毎日準備されたコンクリート製品を型枠に入れて、圧力を加え、ひびが入るまで、試験室で試験した。

試験室では、コンクリート製品の製造工程を詳しく説明された。平野社長は、コンクリート製品の製造工程を詳しく説明された。

試験室では、コンクリート製品の製造工程を詳しく説明された。平野社長は、コンクリート製品の製造工程を詳しく説明された。

県民の安全・安心確保へ 迅速な活動を約束

県と災害協定を締結 体制を整え 迅速な活動を約束

両者で協定書を取り交わした後、宮内担当部長は、県がハード・ソフトの両面で防災・減災対策を進めていることを説明した上で、風水害など大規模自然災害が多発している現状にも触れ、「対応策に当たっては、県民の安全・安心を最優先に考えていく」と述べた。

両者で協定書を取り交わした後、宮内担当部長は、県がハード・ソフトの両面で防災・減災対策を進めていることを説明した上で、風水害など大規模自然災害が多発している現状にも触れ、「対応策に当たっては、県民の安全・安心を最優先に考えていく」と述べた。

両者で協定書を取り交わした後、宮内担当部長は、県がハード・ソフトの両面で防災・減災対策を進めていることを説明した上で、風水害など大規模自然災害が多発している現状にも触れ、「対応策に当たっては、県民の安全・安心を最優先に考えていく」と述べた。

両者で協定書を取り交わした後、宮内担当部長は、県がハード・ソフトの両面で防災・減災対策を進めていることを説明した上で、風水害など大規模自然災害が多発している現状にも触れ、「対応策に当たっては、県民の安全・安心を最優先に考えていく」と述べた。

両者で協定書を取り交わした後、宮内担当部長は、県がハード・ソフトの両面で防災・減災対策を進めていることを説明した上で、風水害など大規模自然災害が多発している現状にも触れ、「対応策に当たっては、県民の安全・安心を最優先に考えていく」と述べた。

両者で協定書を取り交わした後、宮内担当部長は、県がハード・ソフトの両面で防災・減災対策を進めていることを説明した上で、風水害など大規模自然災害が多発している現状にも触れ、「対応策に当たっては、県民の安全・安心を最優先に考えていく」と述べた。

両者で協定書を取り交わした後、宮内担当部長は、県がハード・ソフトの両面で防災・減災対策を進めていることを説明した上で、風水害など大規模自然災害が多発している現状にも触れ、「対応策に当たっては、県民の安全・安心を最優先に考えていく」と述べた。